

## 【タルシーゾ牧師とその家族からの伝言】

私たち家族があなたと共に過ごしたのはたった5ヶ月という僅かな期間です。けれども、あなたが特別な人だと知るには十分なときでした。あなたの信仰の証、解放された心、寛容、そしてアルト・ダ・ボンダージの共同体への献身の姿を見てそう思います。あなたをここに遣わしてくださった神を讃美します。その無限の善と憐みの中で、神があなたに始められた彼の良きわざを今後も続けられますように。そして、あなたの宣教生活に良き報いが与えられますように。あなたの笑い声やこの共同体で共に奉仕したことを、私たちは懐かしく思い出すことでしょう。そしてあなたのためにいつも祈っています。

あなたと出会え、共に過ごすことができよかったです！私たち皆から抱擁の挨拶（アブラッソ）を送ります。

タルシーゾ牧師、ジャナイーナ、  
ジョアン・パウロ、ジョアン・ルカス、  
カロリーナ・エステー、ジョアン・ペドロ



## 教団世界宣教委員会幹事 加藤 誠

Jeitinho Brasileiro (ジェイチーニョ ブラジレイロ：ブラジル式解釈法) という言葉をブラジル滞在の最後の地、サンパウロで教えていただいた。例話を聞く限り「泥棒にも三分の理」の強烈ブラジル版であったが、帰国し小井沼宣教師と共に過ごさせていただいた濃厚な数日間を思い返すと、何故か冒頭の言葉が思い出されるのである。それは、小井沼宣教師が意識しておられるかは不明であるが、しばしば「出たところ勝負」とか「やるっきゃない」との言葉を耳にしたせいかも知れません。最初に小井沼宣教師に出迎えていただいたのは、サルバドール空港であった。そこでは新しく小井沼宣教師が赴任予定のバレーリオ・シルバ合同長老教会のダゴベルト牧師以下数名の教会員と良き交わりが与えられ感謝でした。6月19日（金）にはアルト・ダ・ボンダージ教会に隣接するクレシェ・ジェンチ・ノーバ（保育園・新しき人々）で約80名の園児・スタッフと共に小井沼宣教師への感謝会に出席。実はこの保育園には

小井沼宣教師を通じて教団教育委員会のクリスマス献金から200万円がささげられました。午後にはブラジル・メソジスト教団の北東教区事務所で、ただ一人の女性 **Bispa** である **Marisa** 牧師に面会する機会を設けていただきました。小井沼宣教師の仲立ちによって、ブラジル・メソジスト教団と日本基督教団とが、教会と教会との話をすることができた事は非常に有意義であったと思います。

翌、土曜日はアルト・ダ・ボンダージ教会の青年が企画した収穫感謝祭に参加。教会のすぐ目の前の路上では酒場が開かれ、暴力、ドラッグといった悪徳が特に若者を飲み込もうとしています。その最前線で教会がイエス・キリストの福音をもって戦う姿を見させていただきました。翌日の礼拝前には小井沼宣教師の後について訪問。一人一人の過去と拭うことのできない悲しみに寄り添いつつの体当たりの伝道にわずかでも参加させていただいたのは感謝以外何物でもありません。

省 略

年会費・特別献金者名 (敬称略・順不同)  
省 略 (37 件)

2015.4.1～2015.6.30

音楽・センター献金者名  
省 略 (3 件)



編集後記

今井 俊子

2009 年に小井沼眞樹子宣教師がブラジルに赴任されてから 6 年が過ぎ、この 6 月でその任務を終えられました。オランダ通信も今回の 13 号が最終号です。眞樹子宣教師がアルト・ダ・ボンダージ教会でどんなにたくさんの種を蒔かれ、どれほど豊かな実りを与えられたか、教会の方々からの声を通してお分かり頂けたことと思います。また、折良くブラジルを訪問された加藤誠牧師より、その訪問記をお寄せいただきました。

これまでの神様の御導きと御守りを感謝しますと共に、日本各地で、そして遠く海外で、祈りを持って共に歩み、献金を捧げ、またオランダ通信をお読みくださったみなさまに、深く感謝いたします。

今後、眞樹子宣教師は新たなブラジル宣教に向われると伺っています。その時にはまたご案内いたしますので、引き続きお祈りと、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

(横浜港南台教会員)